

今日は10月2日(月)。今年度の後半は雨のスタートです。
月1回は発行しようと思っていた「校長便り」でしたが、9月は出せずじまいでした…反省しております。取り急ぎ、9月の1ヶ月間を振り返ります。

9月2日(土)、助成をいただいている福武教育文化振興財団の助成贈呈式と成果報告会がありました。本校は発表会のステージでランゲージカフェの取組を報告。主担当の安東先生と3年生の渡瀬さんと森本さんが、パワーポイントによる説明に寸劇を取り入れたプレゼンで1年間の活動概要の成果を分かりやすく報告してくれました。実は寸劇には私も「出演」しました。聚楽園や津山城を観光ガイドしてもらう外国人留学生役です。ややトウの立った留学生でしたが会場からの笑いも取れ、活動の楽しさを伝えるのに少しは貢献できたのではと思います。今年で3年目のランゲージカフェですが、より多くの生徒達が主体的に関わる広い意味の「異文化交流の場」であり続けられるよう、知恵と工夫を出していきたいです。



↑ 寸劇の一コマ

自彊祭文化の部が9月6日(水)に行われました。

お早うございます。いよいよ、待ちに待った自彊祭の開幕です。

今年のテーマは

「一念発起 初めの第一歩～エピソードⅠ～」

「一念発起」とは、それまでの考えを改め、あることを成し遂げようと決意し、熱心に取り組むことです。

国際ビジネス科がなくなり、初めて迎える自彊祭…不安なこともたくさんありますが、最初の大切な一歩目ということで、皆の思いをひとつの大きな力にできるようにこのスローガンにしました！

開会にあたって、何か一言を…と考えたのですが、この生徒会執行部が発行した自彊祭ニュース号外にあったテーマ決定のメッセージに勝るものはない気がして、そのまま拝借しました。

敢えて付け加えるなら、「一念発起」は、元々これから仏の道に入って悟りを開こうと決心することであり、「仏様の教え」という昔からある尊いものを受け継いで、自分なりの道を開こうという姿勢です。ですから今年の自彊祭は、本校に脈々と受け継がれてきた自彊祭のよき伝統を、君たちなりに受け継いで、2学科4クラスにふさわしい新たなよき伝統をつけくわえるものだと思います。そのために必要なのは、言うまでもなく、一人一人の小さな力を、一人一人の思いを重ねることで、大きな力にすることです。

まずは本日の文化祭です。「一念発起」した文化の「祭」で、発表団体がどんなエピソードを生み出し、それがどんなレジェンドになるのかを楽しみに、初めの一歩を踏み出したいと思います。

この挨拶で期待のとおりに、3学年縦割り、赤・桃・青・緑の4団による枠組みの初めての文化祭は、様々な新たな趣向と従来の持ち味がミックスされていました。

新たな趣向には、開会式後の生徒商業研究発表と四校連携講座の報告がありました。文化祭という学校行事がレインボー・プロジェクトの一環であり、単なるお祭りではなく日常の学びに繋がっていることを象徴的に表してくれました。企画してくれた先生方、見応え聞き応えのある発表をしてくれた生徒諸君に「感謝♥」です。

笑いが弾けた3年生のクラス劇、多彩なメニューの2年生の模擬店、各クラスの「色」が見事に現れた1年生の展示発表。安定感のある文化各部や図書・保健委員会の取組に、昨年度から始まり新鮮な印象の1年生世界史展示。そして津商モールに繋がる「TSUSHO ふれっしゅまーけっと」等々、従来からあるプログラムも充実していました。また恒例のPTAの焼き鳥販売には例年以上に多くの保護者の方々の参加があり、文化祭を盛り上げてくださいました。

文化の部のフィナーレは、昨年に引き続いて作成された映像による「自彊祭のここまでと明日への決意」。準備や練習に励む生徒や先生の明るい笑顔を盛り上げるBGMは「虹」。私のご最良のアーティスト、高橋優の曲です。嬉しくなって一緒に歌いながら「このまま明日に突入できれば!!」と思ったのですが……

翌7日は終日雨。体育の部は一日順延して9月8日(金)になりました…赴任以来、3年連続の順延です。雨女だとの自覚はないのですが、どうも体育祭との相性はよくありません…しかも、水はけのよくない本校のグラウンドでは予定どおりの開始は不可能なため、11時開始に決まりました。当然いくつかプログラムをカットしなければならないため、担当の先生達が相談して決めて生徒達に伝えました。が、納得のいかない生徒達から抗議の声が上がりました。「何で生徒に相談してくれないんですか!？」

全くそのとおり。あれほど生徒達に「主体的に!!」「自分で考えて!!」と言っておきながら、この大事な局面でそれを忘れてしまうとは…校長として猛省し、急いで担当の先生達に再検討をお願いしました。

午前11時。体育の部が始まりました。開会式の校長挨拶です。

生徒の皆さん。

ようやく、ようやく、自彊祭体育の部の開会式にこぎつけました。

まずは、天候とグラウンドコンディションのためとはいえ、1日の順延そして時間を繰り下げての開会になってしまったこと、それに伴って種目のカット等を余儀なくされたこと、とりわけ種目カットに関して生徒の皆さんの意見を聞けなかったことを大変申し訳なく思っています。生徒の皆さん、特に3年生の皆さんは、事前に学校からお願いしていた髪型のルール等、しっかり守って今日の日を迎えてくれたにも関わらず、時間的な制約があったとはいえ皆さんの気持ちに即さない形になってしまいました。本当にごめんなさい。ただ担当の先生達とお話しして、カットすると連絡した競技のうちのわずかですが復活することにしました。具体的には後で連絡します。全員の皆さんの希望を叶えることになっていないかもしれませんが、それで了承してください。

この日のために重ねてきた準備や練習の全てを披露できなくなったことを、生徒の皆さん、とりわけ最後の自彊祭に賭けてきた3年生の皆さんは、悔しく残念に思っていることでしょう。その思いは、津山商業の校長として

最後の体育祭を迎えている私も同じです。しかし、こんな状況だからこそ、できる競技やパフォーマンスを最大限行っていきましょう。文化祭の閉会式で流れた『虹』の歌詞のように、みんなの一喜一憂、悲しみの雨が、7色の虹に変わるよう、これから皆の手で奇跡を起こしましょう。奇跡が起こる予感には既に、この時間に開会式を迎えるための、早朝からの、皆さんのそして先生方の奮闘ぶりから感じられます。「雨にたたられて大変だったけど、『一念発起 初めての第一歩』のテーマどおり、自彊祭の歴史に新たなエピソードを加えられた」と胸を張って言える体育祭にしましょう。

お礼が遅くなりましたが、期日や時間の変更にもかかわらず、御来場くださった同窓会、PTA他の御来賓の皆様、保護者並びに近隣の方々に、厚く御礼申し上げます。加えて、近隣の方々には、1ヶ月以上前から練習のための大声や太鼓の音で、大変御迷惑をおかけしました。この場を借りてお詫び申し上げるとともに、寛大なお心でお許しいただいたことに、心より感謝申し上げます。

赤、桃、青、そして緑の各団のこぼした涙と汗が、奇跡という虹になることをことを願い、開会の挨拶といたします。

その後、担当の先生が生徒達から要望の多かった2競技の復活を伝えると歓声と拍手がわき起こり、「奇跡」を呼ぶ体育の部がスタートしたのでした。

最大の「奇跡」。それはやはり応援合戦でした。2年前、初めての体育祭で鶴丸太鼓によるパフォーマンスに接して大感激した私は、「今年はどうなるんだろう」と期待と不安で胸を躍らせていました。というのも、団毎の3つの発表が2団合同での2つの発表に変わることによって「2つじゃ、ちょっと物足りないかも」と内心思っていたのです。しかし私の予想を見事に裏切り、人数が増えた分厚みが出てエネルギーが高まった2組の応援合戦は、太鼓はもちろん踊りもかけ声も、お世辞抜きで素晴らしい出来でした。（今年赴任した二木教頭は、2年前の私同様「すごいですね」を連発していました）

閉会式。「自彊祭の奇跡を、明日からに活かしてください。とりわけ11月の津商モールに繋げていきましょう」云々のありきたりの「挨拶」を用意していたのですが、私の前に並んでいるのは、そんなことを言わなくても分かっている生徒達でした。そんな彼らにかけられる言葉は、「奇跡をありがとう。また一緒に歩いていこう!!」の一言でした。

自彊祭明け。3年生の就職希望者は、試験前最後の追い込みの週です。3年団や進路指導課はもちろん、全員の先生方が面接指導等にあたってくれています。（もちろん私や教頭もです。）

9月15日（金）。放課後、就職出陣式がありました。緊張した面持ちの生徒達にこんな声かけをしました。



・「出陣式」だが、就職試験は決して「戦い」ではない。自分が受ける会社を十分理

解し、自分のよさをしっかりアピールする機会。そんな楽しい充実した時間だということ
を忘れずに、ぜひ楽しんできてほしい。

・本番の試験、特に面接試験では自分の弱みを強みに置き換えてしっかりアピール
してほしい。津商で成長した自分自身のよさを、自分の言葉でしっかり目の前の相
手に自信を持って伝えてほしい。

・ありがたいことに「津山商業さんから取りたい」と言ってくれる事業所や会社は少
なくない。けれど、それは皆さんの力ではない。創立96年という歴史と伝統の中で
先輩達が創り上げてくれた本校への信頼と愛着。そのことを忘れず、周囲への感謝
の気持ちを持っていくこと。

・万一よくない結果が出たら…それが、全力で取り組んで出た結果なら仕方がない。
その会社とは「御縁がなかった」と気持ちを切り替えよう。私以下、全員の先生
達が全面的にサポートします!!

最後に、上の写真のように円陣を組んで互いに健闘を誓い合いました。

現在、結果が続々返って来ており、「校長先生、合格しました」との笑顔の
報告を受けている毎日です。

3連休明けは「千客万来」の一週間でした。19日(月)に高校教育課、22
日(金)に教職員課の学校訪問があり、21日(木)には、国立教育政策研究所
の長田徹先生による今年度2回目となる本校訪問です。津商モールが2ヶ月後
に迫る中、モールに向けた準備のための商業科の授業と全校挙げての特別活動
の取組を視察の上、指導助言をいただくためです。

当日の授業や特活の内容と長田先生の示唆に富んだ指導助言は、号を改めて
お示ししたいと思います。

校長便りでは紹介できていませんが、今学期初めに本校生徒のすばらしい活
躍がありました。

まず3年生の稲見将太君。幼い頃から積んだ研鑽が花開き、銃剣道競技で国
体に出場することが決まりました。県の代表として力を十二分に発揮し、悔い
のない結果を出してきてほしいと思います。

そして珠算部。8月の全全国高等学校珠算・電卓競技大会で団体第3位(電
卓部門)、9月初めの全国簿記電卓競技大会では団体第4位、3年生の田尻知
加さんが個人総合優勝つまり日本一に輝いたのです。

顧問の北先生曰く「一人一人の毎日の地道な練習の積み重ねと部員全員のチ
ームワークの勝利です」。なるほどなあと納得しつつ、これは勉強でもスポー
ツでも仕事でも、何にでも通用する「勝利の秘けつ」だと感じました。

先週、田尻さんは竹井教育長のもとを、宮地津山市長のもとには珠算部全員
が訪れて、それぞれ今回の栄誉を報告しました。

商業高校生らしい活躍に誇らしさを覚えるとともに、珠算部の「勝利の秘け
つ」を全校生徒に広げたいと思っています。手始めはやはり学習でしょう。「一
人一人の地道な積み重ねと全員のチームワーク」を発揮した津山商業の学びの
実現を目指し、10月6日(金)の第3回津商型学習指導研修会を実り多きも
のにしたいです。

平成29年10月2日(月)